

昭和五十九年六月

平城宮発掘調査出土木簡概報(七)

奈良国立文化財研究所

平城宮出土木簡概報一七正誤表

第一四九次調査 (GAIIN・O区)
西一坊坊間大路西側溝SDOR110

中世の土取穴SK11770

挿入

一九頁下段二行
二〇頁下段八行

一頁下段七行
一頁下段七行
一頁上段七行
二頁上段一七行
二頁下段一三行
三頁下段二行
四頁上段一行
四頁下段六行
一四頁上段二行
一五頁三行
一六頁下段六行

誤 推 推 灰 推 推 一 大 推 二 坊 土 馬 伴 な ゝ 十 連 九 月 日 宋 粟 廩

正 堆 下 層 (灰 堆 一 大 堆 一 坊 土 馬 伴 の 七 連 九 月 日 宋 粟 廩)



平城宮第154次調査出土木簡（約1：2）



平城宮第154次調査出土木簡（約1：2）

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報十六』（昭和58年5月）以後、平城宮跡および平城京跡から出土した木簡の主要なものを収録する。

以下、木簡の出土地域ごとの状況を述べ、凡例と釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第一五〇次調査（6 A B X—A・B・D区）

昭和58年4月～8月

調査区は、平城宮推定第一次東朝集殿地区に当たり、第一四六次調査区に南接する位置にある。検出遺構は掘立柱建物一棟、築地塀一条、石組暗渠一基、木樋施設一基、溝五条、井戸二基等である。遺構は、A期（古墳時代）、B期、C期、D期、E期、F期の五時期に大別できる。この地域は、B期・C期には溝、井戸等があるだけで、D期になって推定第一次朝堂院を区画する塀を築地塀に改作するのに伴いそれを南に延長して朝集殿推定地を囲む築地塀を築くが、この内部には奈良時代を通じ建物等が存在した形跡はない。

木簡はS D三七六五から削屑三三点が出土した。S D三七六五は、調査区東端を南北に貫流する素掘りの溝で、推定第一次大極殿院及び朝堂院地区の調査でその上流を検出しており、和銅の年紀を有する削屑が出土している。この溝はB期に属し、和銅創建時に掘削された基幹排水路で、C期には機能を停止する。幅約一・〇m、深さ〇・三mを測り、推積層は上層（橙褐砂）・中層（灰褐砂）・（灰黒粘土）の三層に大別され、削屑は全て下層から出土した。「□少志佐伯」「□一人□使一人」と墨書の残る削屑以外は墨点のみのものが多い。

第一五四次調査（6 A A D—C・F区）

昭和59年1月～4月

調査区は、推定第二次内裏・大極殿外郭東方官衙に当たり、埴積基壇建物群とそれを囲む築地を検出した第四〇次発掘区に南接する位置である。検出した主な遺構は、礎石建物二棟、築地塀三条、掘立柱建物一棟、掘立柱塀八条、溝五条、橋脚二基、木樋暗渠一基等で、大きく奈良時代前半、奈良時代後半、平安時代の三時期に区分できる。木簡は四条の溝と木樋暗渠とから総計一九二九点が出土した。

南北溝SD二七〇〇 SD二七〇〇は、従来の発掘調査

(第二一・二二九・二三九次)によって上端幅二・〇m、深さ一・四m前後で両岸を玉石で護岸した石組溝であることが明かにされてきたが、今回の調査区では石組溝がSD四二四〇との合流点附近の東岸に限られ、何度かの積み直しが行われていることや、幅も六m前後に広がるなどの知見が得られた。SD二七〇〇の推積層は大きく七層に分けられる。木簡は層序に従い年代順に出土した。底から第二層めから天平二年、四年、第三・四層めから天平五年、天平神護三年、第五・六層めから延暦二年、三年の紀年銘木簡が出土し、最上層からは隆平永宝とともに九世紀代前半の土器等が出土している。SD二七〇〇から出土した木簡は計一七七八点である。木簡以外の遺物も多量に出土し、「左目病作今日 今□」と墨書した人形や木偶・鳴鏑・木箱・刷毛・匙等の木製品、陶硯・土馬・帯金具・海老錠・墨書土器などがある。墨書土器は一七七点が出土し、中には「右寮」「大膳」「近衛府」「宮職」「造宮」「廳」「厨」「□人所」「内舍人」「取長」などの官司、官職名に関する記載をもつものや、「施」「枸杞」等の物品名を墨書するものがある。

木樋暗渠SX一一五〇四 SX一一五〇四は、調査区南

端で新たに存在の確認された官衙からの排水施設である。この官衙はその北端部のみを検出したに止ったが、東西一七〇尺の築地で囲まれる礎石建物等から構成される。SX一一五〇四は官衙の西面築地の北端で築地下を抜けSD二七〇〇に注ぐ。三本の木樋が幅〇・七m、深さ〇・七mの掘形底面で連結され、全長七・七mに及ぶ。木簡は木樋内から削屑四点を含め計六点出土した。猶、木樋底板の下から平城宮編年第三期の軒丸瓦が出土している。

東西溝SD四二四〇 SD四二四〇は、内裏内郭からの素掘りの排水溝で、SD二七〇〇に西方から合流する。幅は調査区西端で二mあるが、合流点附近では六mに広がり、深さは一・二・二mである。推積層はSD二七〇〇同様七層に大別され、木簡はそのうちの下から二・三・四・五層めから計七〇点出土した。また「政所」「菜」などと書いた墨書土器一三点も伴出している。

南北溝SD三四一〇 SD三四一〇は、宮の南北排水溝の一つで、西岸にのみ径約〇・五mの玉石を二、五段に積み上げ、幅四・五m、深さ一・〇mの規模である。この溝は、当初の素掘り溝をのちに改修し、西岸を玉石積に、東

岸を木杭で護岸している。木簡は溝の二層の堆積層から計六七点出土している。下層からは和同開珎・万年通宝・神功開宝の三種の銅銭とともに天平十六年の紀年銘木簡が出土している。また伴出遺物には二八点の墨書土器があり、「左土」「木工」「相模國/石□」の墨書を有するものがある。

東西溝SD一一六〇〇 SD一一六〇〇は、SD三四一〇の北端に接続して東へ延びる素掘りの溝で、幅五・八m、深さ一・〇mである。堆積層はSD三四一〇同様二層に大別でき、下層から木簡計八点が出土した。

第一二五―五・六次調査（6AIM区）

昭和58年7月

調査は県道城廻り線建設に伴うものとして行われ、九条大路北側溝（SD〇一）と土壙（SK〇二）を検出した。九条大路北側溝SD〇一は幅二・五m、深さ〇・七〇・九mの溝であり、北岸のみをしがらみで護岸していた。木簡は一点が出土した。又平城宮編年第Ⅱ期の土器を出土した土壙SK〇二は平城京造営時のごみ捨て穴と考えられ、木簡三点が出土した。

第一四九次調査（6AIIIN・O区）

（右京八条二坊十一坪） 昭和58年4月～6月

調査は大和郡山市北焼却場建設に伴う事前調査で、発掘調査の結果奈良時代の遺構は中世以降に掘られた土取り穴によって大幅に破壊されており、西一坊坊間大路（SF〇九一〇）とその東西の側溝（SD〇八八〇・〇九二〇の他に建物一棟、塀五条、溝一条、井戸一基等を検出するに止まった。

木簡は西一坊坊間大路西側溝SD〇九二〇から合計一八点が出土した。西一坊坊間大路西側溝SD〇九二〇は、幅五・五―一・〇m、深さ約一・七五mで、東側溝SD〇八八〇が幅一・〇m、深さ約〇・三mと小規模であるのに比して、道路側溝としては不相応に大規模である。溝は埋土の状況からA期（平城京造営当初）、B期（奈良時代後半）C期（奈良時代末～平安時代初頭）の三期に大別できる。木簡は全てB期の溝から出土した。B期の溝はA期の溝の両岸をシガラミで護岸して改修しており、ここからは平城宮編年第Ⅱ、Ⅲ期の土器が伴出している。

SD〇九二〇の木簡と伴出した遺物には、木製人形、馬

形・鏃形・斎串・人面墨書土器・模型カマド・土馬、青銅製鏡・鈴等多数の祭祀関係遺物、とりべ・鞆羽口・鉾滓・砥石等の鑄造関係遺物、銅帶金具、和銅開珎・万年通宝・神功開宝等の銅銭等があり、とりわけ六一三点に及ぶ墨書土器が注目される。墨書の内容は、氏の名と思われる「林」(12点)「桑」(2点)「大宅」(2点)「民使」とあるもの、「政所」「南家」(2点)「右京」等官司、貴族等の家政機関等に関すると思われるもの、「□□/九々八十一」からは奈良時代としては初出の呪符を墨書した土師器二点が出土していることも注意される。

第一五一―一次調査(6AFM―Q区)

(左京四条二坊一坪) 昭和58年3月～5月

調査は会社社屋建設に伴う事前調査で、奈良時代に属する遺構としては、掘立柱建物五棟、東西堀二条、南北堀四条、八角形井戸一基、土壇等を検出した。八角形井戸(S E二六〇〇)の井戸枠東一段目外面に墨書があった。八角形井戸S E二六〇〇は再用埴を土居として八角形に一段敷き、埴上に八角形木枠を組み上げたもので、直径一・五m、

一辺平均六一・六cm、深さ約一mである。猶、S E二六〇〇は天平末年に掘削され、奈良時代末期には埋められ、平安時代に入って完全に廃絶したと考えられる。

第一五一―一次調査(6AFI―H区)

(左京二条二坊十三坪) 昭和58年8月～10月

調査はホテル建設に伴う事前調査で、左京二条二坊十三坪に当たり、これまで二度にわたり(第一三一―三二・一四一―五次)当坪内を発掘調査している。今回は二つの発掘区を東西に並行して設定した。木簡が出土した西発掘区の主な検出遺構は掘立柱建物五棟、十二・十三坪坪境小路とその東西側溝、溝三条、木樋一条、土壇三基等である。

木簡は十二・十三坪坪境小路東側溝S D二七四〇から三点、中世の土取り穴S K二七七〇から一点が出土した。S D二七四〇は、幅三・〇m、深さ〇・二～〇・七mの素掘りの溝で、八世紀前半に属する。S K二七七〇は発掘区全域にわたり奈良～平安時代の遺構を破壊して掘られた一三一基の土壇の中の一基であるが、ここから出土した木簡は内容、書風等から奈良時代のものと考えられるから、土取りの際

し、入り込んだものであろう。

二、凡 例

(一) 釈文は出土遺構ごとに掲げ、同一遺構の中では、内容分類によって、文書、付札、その他の順に配列するのを原則とした。

(二) 最上段に出土地点(アルファベット・数字)、次の段に形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りである。なお本概報では千位の6を省き三桁の数字で表わした。

6011型式 長方形の材。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって

原形の失われたもの。原形は6011・6032・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小形短形のもの。

6022型式 小形短形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。

の。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。

6039型式

長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損、腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051形式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割載・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

(三) 釈文に加えた符号はつぎの通りである。

く く 抹消した字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

■ ■ 抹消により判読困難なもの。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□ 記載内容からみて上または下に少くとも一字以上の文字を推定したもの。

「」 異筆、追筆。

∟ 合点。

・ 木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

カ 編者が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

〔 〕 校訂に関する注のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

（ ） 右以外の校訂注および説明注。

(四) 釈文の出土地点の上に付した米印は、□絵図版に写真を掲げた木簡を示す。米は図版一に、*は図版二に掲げた。

第一五四次調査 (6 A A D - C · F 区)

南北溝 S D 二七〇〇

*FH 27 019 · 合進廨丁一人 土師商人 讚岐国人 三木郡

延暦二年二月十九日物部又麻呂

FG 28 059 · 留守内堅八人

穴太公万呂 若湯坐調
内藏豊守 川原豊

FG 28 011

東二門

事 [有] 從八位
六月廿三日 廿廿

□□□

FL 28 011

大炊受助充 内膳

典 □□□□□□□□

**FL 27 011 · 西直人六人

久米石凝 長谷部小枝
刑部大万呂 部尔山

FG 28 081

内兵庫受

· 大生乙万呂 若倭東人

五月四日

□□

FJ 27 011

□□宿

置始人上 出雲葛人

□月廿三日 五日

FH 28 081

西細殿朝計

· 皮茗一人 □ 一人 □ □ □ □ □ □ □ □

F1 27 011

· 泉内親王宮

出物 □ □ □

**FG 27 081

□ 遞送事合浮浪人 □

· 九月廿五日

*FG 27 011

大連縣万呂河内国丹比郡人

坂合部女王資人申送已

*FK 27 011 合自正倉給下円坐七十六枚之中 大枚
四
廣海

延曆二年三月廿三日 □ 又 □

FI 27 091 從五位下

大宅朝臣東身 日百卅

*FL 27 081 符沙山司等以今月十一日

Y 四
田 三
田 三
田 三

FK 26 081 人足 夕百五十

FG 27 081 □ 殿寮解申請火事 □ 屬正六位上三野臣枚田

FG 28 091 日伯參拾伍
夕伯

天平勝寶三年

FG 28 091 □ 甘乙麻呂 日伯肆拾

FJ 27 081 返抄諸上進薪 □

葛井

FG 28 091 □ 嶋 日伯貳拾

*FH 27 081

□ □ □ 未

右物依員欲納以付但馬荷又如法
自今以後如法勒荷敷可進上又付便
猶并付菌守等可進上又東蘭努

□ □ 過時故返抄

四月十一日

□ □ 廣海連福成

FG 28 091 □ 勝麻呂 日伯參拾

FL 27 081 人少将宅

FF 27 08/ 謹解申請錢□□

西□借米三十□

FH 27 08/ □少屬大初位上官勝大嶋

□前以解

FI 27 08/ 酒人尊者前下啓 請□□事

FG 27 08/ 中宮職解

FH 27 08/ 圖書寮解 申□

□□□□□

FJ 27 08/ 大膳職解 大道正六位上□□役万呂□

FL 27 08/ □官□□□□□

□日如伴故解

補四

以去五月

天平四

右□今日廿八日被左大□

FG 27 08/ 中宮職□

FL 27 08/ 左兵衛府移 中衛

FG 28 08/ □事右

正六位下□中臣部□□

〔大〕〔五〕

天平神護三年□月□日

FH 27 08/ □□□□

右□□□

天平勝寶

FG 27 08/ □□万呂 □□□□

二月八日付物部□□

FG 27 08/ 附左大舍人□久米□□

□□□□□

〔教〕

FH 27 08/ 天平勝寶三□□

□□□□□□□□

FH 27 081 從七位上行大志平群朝臣□□

□ 右□□□□□

FM 28 081 未□進人藤原部栗門人足嶋□右

□雙稻君 津門宮内省
右位子 合四人

FJ 28 059 十日國人錢廿文借□

七日主人家衣質借□□
三日七日八 八□□□□

FH 27 081 □□^廿□□□ 大舍人L車□

FG 28 091 □□□^廿□□ 升案主礼□

FG 28 091 史生七人

FJ 27 081 □□臣万呂 典藥允

□ □

FK 27 081 勅旨^省□□ 完返

FJ 27 081 中衛府駕□

FG 28 091 左兵衛□

FM 28 081 内舍人□□

FH 27 091 陰陽□^寮

FG 26 091 買專使

FF 27 081 史生安都□養

少監物從七位上中臣朝臣□
從七位下坂本朝臣□

FH 27 081 □□□□

□□博士上毛野龍人

FG 28 091 從五位下右衛士府佐兼行□

FL 28 08/ 員外少志正六位上□□
醫師正七位下

FH 27 08/ 府生從六位下日置□□

FG 28 09/ 正八位下粟田□□

FG 27 08/ 將監丹比□
〔寛〕

FG 28 09/ 日置京麻呂

FG 28 09/ 伊吉布麻呂

FI 27 05/ 三月料□□米參斗□□
〔教〕

□□
〔五 六升〕

FG 27 08/ 六位下行少丞勳十二等御炊朝臣□□井万呂

阿□□ □日

FK 28 08/ 食郷□筆□

□□□
〔大手〕 七月廿三日

FI 27 08/ 各繩麻

人給二升

FG 27 08/ 絶百疋 給

試
卅月 □□□□
□□□□

FK 28 08/ 二月一日所司飯二石九斗

人 □

FI 27 □□□三斗五升二合
請二斗六升

FJ 28 08/ 笠万呂
忌部忍□
引田部□□

FM 27 011 侍從正五位下石川朝臣名人 從七位下石川宿奈麻呂 右二人

縫殿寮助正六位上文忌寸伯麻呂

FE 27 011

少允 大屬正七位上土師宿禰已養 坂合部乙麻呂 八多氏人 守

臺石足 石川氏人 紀田

FF 27 081 縫殿寮解

服部龍 前大舍人等 奉

田人麻呂 田石勝

FK 28 081

多部國女 多部秋女

FH 27 081

鴨家守 御宅 尾

FG 28 081 王國王

三國

大伴王國成成成

田部德 大

FG 28 081

日下部宇万呂 道

FK 27 081

淨麻呂 彈麻呂

守部田人 金刺舍人古祢末呂 連繩武

FG 27 019

阿刀羊志 許西債 田部文政 坂田部伯万呂

FH 27 081 建部刀良 守部六□□

□□ □□

十月八日借鳥石前

F1 28 081 三紀伊四 安伎十

□□ □□

FL 27 011 越前廿 □大宿一

□□ □□

下野廿六 但馬 □□ □□ 五□

□□ □□

FM 28 011 美濃八 越前十一 合十九

FH 27 031 三重郡河後郷白米五□

FH 28 081 隱伎八 伊与

十□

FJ 28 031 嶋国英虞郡 名錕郷 □□ 置国依調堅魚十二斤

十□ [兩五] 月

以二日

雜考

**FM 28 011 美濃工一

上総三

下総廿四 人 斐太廿
備後三 人 斐太廿
播磨二 人 匠丁廿

FE 27 081 参 □国播豆郡折嶋御 □

*FM 28 081 斐太工卅

美濃工九

相模工一 下野
上野仕十五

FL 27 031 伊 □□ 茂郡 □

九連五丸 □年十月

伊与九 四返 但馬
右七十二 上了

FJ 27 031 伊豆国那賀郡丹 □□

九連二丸 □□五年九月 [平]

FD 27 011 伊豆国賀茂郡賀茂郷□□里戸主任生部大麻呂□生部千麻呂調荒堅魚十一斤十兩
大連三九
天平五年十月

*FL 27 011 伊豆国那賀郡射鷲郷和太里文部黒栖調荒堅魚十一斤十兩十連八節

天平五年九月 日

FH 27 039 伊豆国田方郡久寝郷坂本里戸主津守部士諸戸□日下部床足調荒□□_(堅也)
八連三九
天平二年十月

FL 27 031 伊豆国那賀郡丹科郷多具里物部千足調

九連二九
□□九月
(五年也)

FD 27 051 若狭国遠敷郡遠敷郷_{秦人□部森呂}
御調塩三斗

FH 27 031 丹後国□□_(野郡)□□□□□_{鴨若族國當}
五斗

天平寶字四年九月

FL 27 031 若狭国三方郡三方郷□□□□□

FL 27 081 因幡国気多郡□□□□□□□□□□

FH 27 039 因幡国気多郡勝部郷中男勝部人麻呂作物海藻□□_{壹籠_{四斤}}奉□

FH 27 039
出雲国出雲郡□□
□□□□二□□□

FM 28 039
隱伎国海部郡佐岐郷
久良里阿□□□□

FL 27 032
播磨国穴栗郡三方里大豆五斗

FH 27 039
播磨国□□□

FG 27 039
備前国□

九□

FK 27 081
備後国神石郡調釦一

FK 28 081
備中
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

□□

FI 29 081
神石郡賀茂郷□

FH 27 039
紀伊国日高□

FG 28 081
紀伊国海部郡可太郷

FH 27 039
淡路国三原郡□□□□□□

廣調□□□□

FF 27 081
淡路国津名郡□

FI 27 039
淡路国

FH 27 032
□紫郡御家大甘白井黒米

FH 28 059
登里郷土部廣足二斗

FI 27 032
□□郡□□郷馬屋里日下部連

FL 27 059
□郷棘部苗麻呂米六

□月廿日

FJ 27 081 □□郡海部郷戶主壬生部小得口壬生部□□調□□

FJ 27 039 □□□□□□皆万呂調荒堅魚十一斤十兩八連二丸

天平五年九月

FI 26 033 □□郷田寸里戶主秦秋田

戶秦人□米一石

FL 28 059 □□□調塩三斗

FK 27 059 □塩三斗

FH 27 039 □□國足白米三斗

FM 28 081 比志古三斗一升

□□万呂

□鳥朝□

FG 27 039 銅一枚廿斤六小斤八斤大

FG 27 059 □□□□一斗并五升

FH 27 081 紫草捌袋別重五十斤小付□

□□□□□

FL 27 033 □□□□庸米□

*FG 27 039 東□市交易錢計絶原人服部

真吉

FJ 27 081 □志籠 天平五年四月

FH 28 031 高摺衣□領

FG 27 039 . □女 □□□

. 百文 按 日下部

FG 27 033 . 知下錢

. 一百九十三文

FK 27 081 . 三竹 大人 □

. 陸奥 □万呂 成

FG 27 081 小坏四口

□

FL 27 081 供養化二 □

FE 27 081 潤九月料

FL 27 081 天平四年六月十日

FL 27 081 天平七

FH 27 061 . □民部收

納近江大豆出

. 出帳 天平十八年

FG 28 061 . 神護元年

. 七月解

FF 27 061 四年 □

□文

東西溝SD四二四〇

FK 30 081 成選人名 □ □ □

FK 30 081 . 耳雀漆伯漆拾壹貫 尺 □

. □以解

天平十七年八月八日

FK 29 032 . 越前国足羽郡 □ □ □

. □ □ 三百米五 □

南北溝SD三四一〇

*CG 05 011 大蔵□志度 四月五日主計

史生湯坐君万呂

CE 06 081 □内門籍 少録正七位下 三野□□□

CG 05 081 □□□□□□□□□□
廣 婢 守身身告身□□

□□□

CH 05 081 □主大伴多□麻呂

□□右□□□

CH 06 081 □前故移

CH 05 081 秦大麻呂

生部大□

CH 05 039 □□□田□ 宝龜七年□

CH 04 081 □米五斗欠八合

CG 05 081 尾張国舟□

C/ 06 039 但馬国出石郡資□郷矢田部吉□□

CG 05 033 備中国哲多郡石成里□□□□

天平十六年

東西溝SD一六〇〇

C/ 03 081 □吹工三百廿一人 共作二千二□
官人五

九条大路北側溝SDO一

019
□
□
□

和
□^{〔生九〕}

勝寶二年九月□

土壇SKOII
110K011

033 田邊鯨六十編(線刻)

032 廣萬侶鯨百連甲

□^{〔廣九〕}萬侶鯨百連甲

031 □上八十□^{〔編九〕}

NE 92 081 附下田坏廿口
受鳥万呂

OF 92 039 千麻呂米□

OT 92 031 黒万呂

01 93 091 □ 布 春日マ□□

ON 93 061 □^{〔新九〕}羅□□

第一五一—一次調査 (6AFM—Q区)

八角形井戸SE二六〇〇

88
87
061
□

可
宗
領
地地池池□□人□□

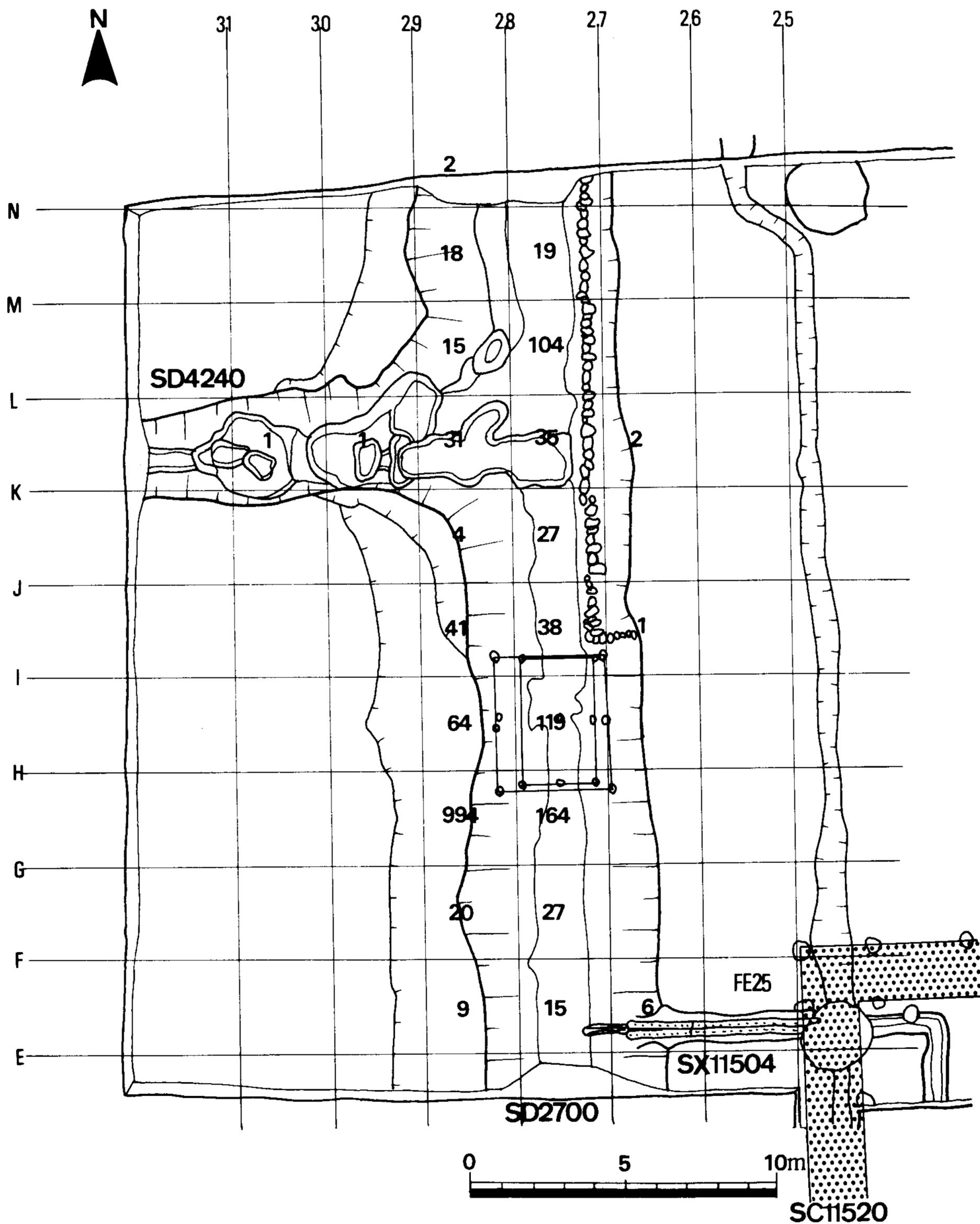
第一五一—一次調査 (6AFI—H区)

十二・十三坪坪境小路東側溝SD二七四〇

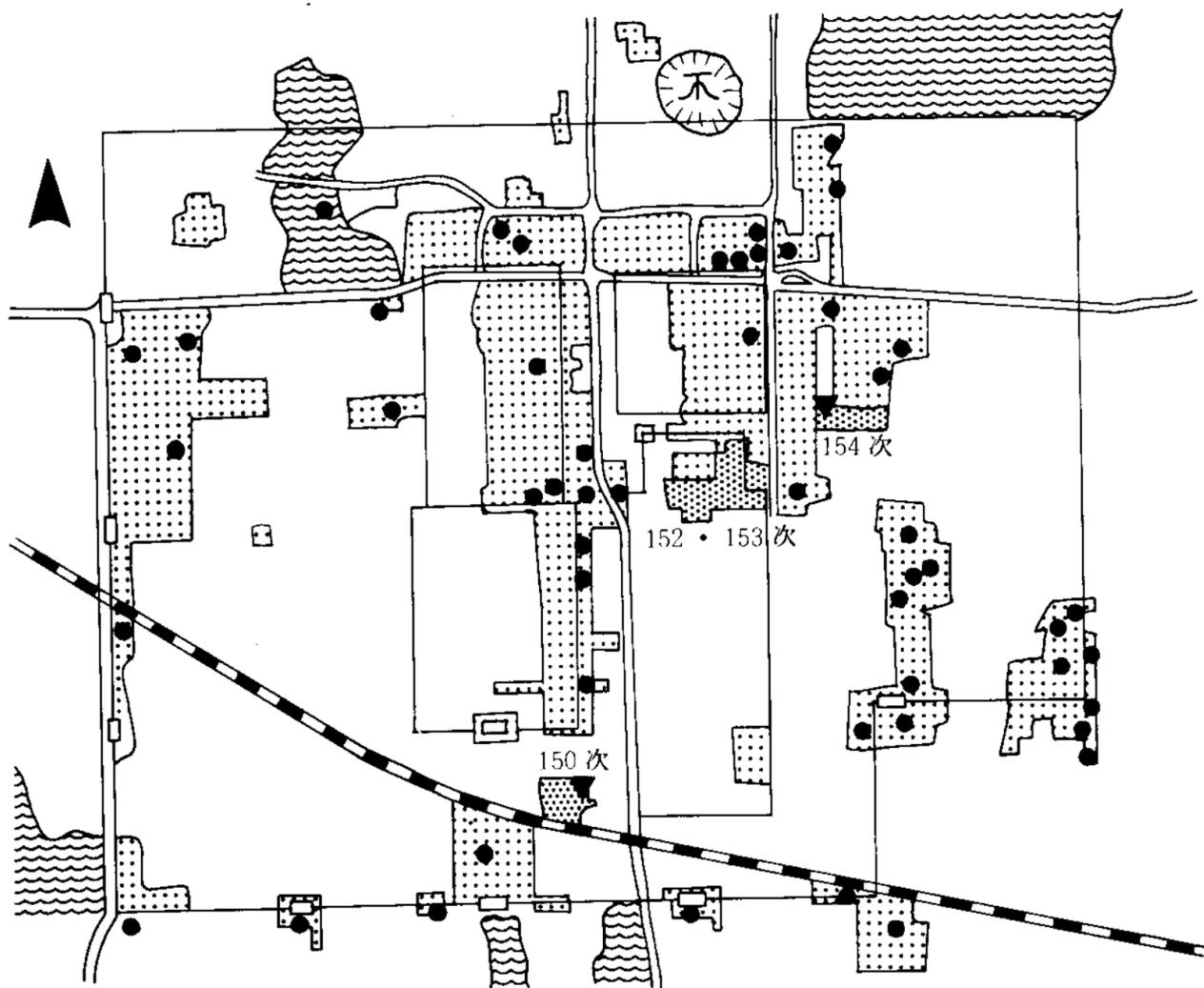
H1
47
019
□□
受五□□
鎰□□

H1
47
051
舟越海松一古

H1
42
039
伊豆國賀茂郡□□□□
郷

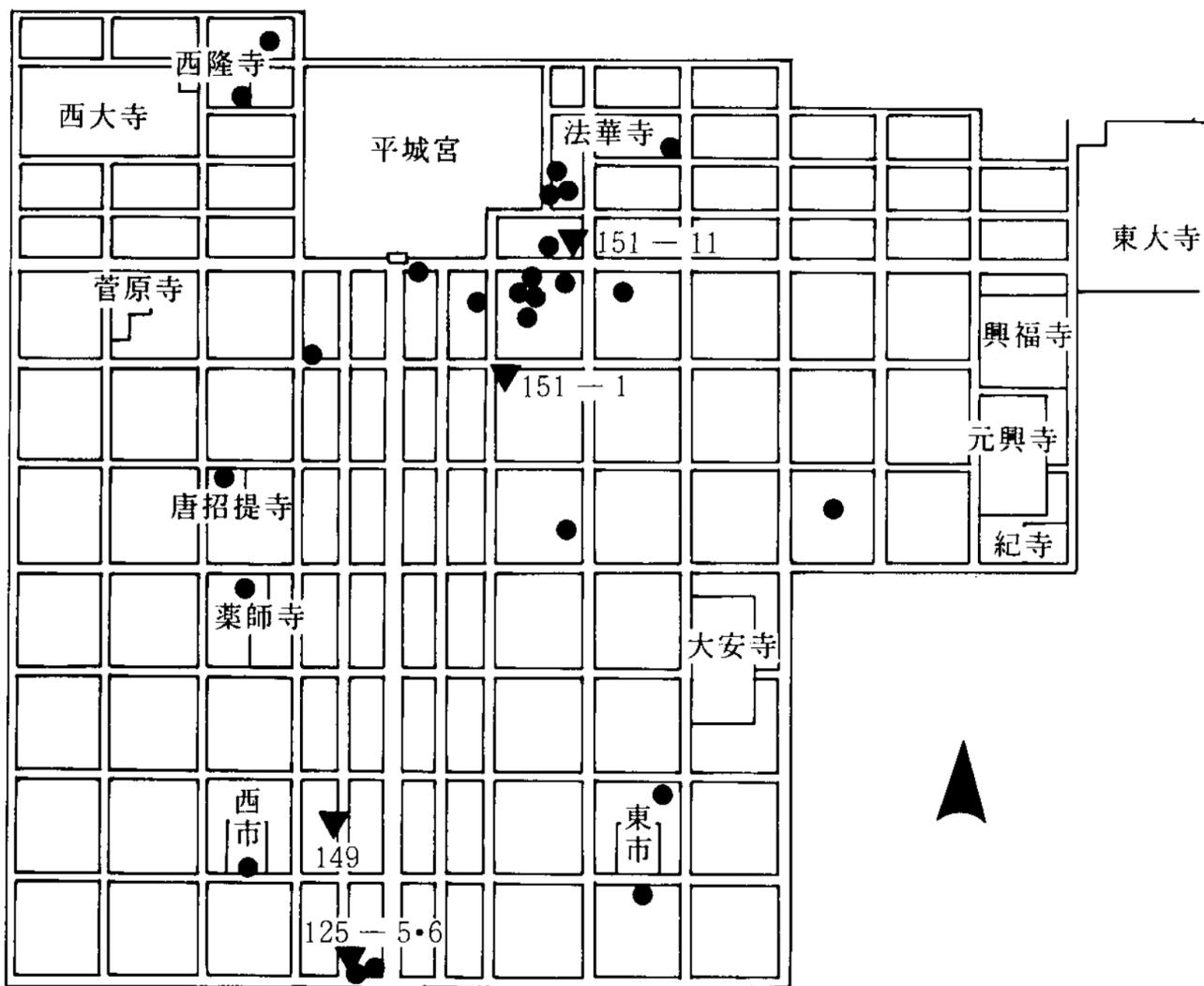


第1図 第154次調査SD2700
小地区別木簡出土状況



-  既発掘地
-  1983年度発掘地
-  木簡出土地
-  1983年度木簡出土地

第2図 平城宮木簡出土地点略図



-  木簡出土地
-  1983年度木簡出土地

第3図 平城京木簡出土地点略図